

陳情第155号	受理年月日	令和5年6月15日
付託委員会	建設建築委員会	
件名	行財政改革における、課題の全事業の洗い出しに基づく門司港地域複合公共施設整備事業の見直しについて	
要旨	<p>門司港地域複合公共施設については、計画が表明された直後から敷地選定の段階で市民の意見もよく聞かないまま、市街地の中心から外れた、外周部を敷地として選び、結論ありきで進められてきた感が否めない。</p> <p>門司まちづくり、一人ひとりが考える会は、これまでの既存施設を生かした計画で進めるべきであると提案してきた。その内容は福岡県開催の公聴会でも意見を述べさせていただいた。</p> <p>現在実施設計中の門司港地域複合公共施設計画では、門司の文化の拠点である門司市民会館図書館を緑豊かな老松公園から移転させないよう、また現在の文化財に指定されている門司区役所を、現在の位置でバリアフリー工事などを行い現機能として使い続けられるよう再考願う。区役所、図書館、市民会館、生涯学習センター等を複合施設に集約するのは、近年の社会状況等から、また将来の公共施設の在り方からしても旧態依然の考え方に基づくものとする。これからの公共施設計画は、まず市民の住宅地を中心に考え、身近な施設として計画すべきだという考え方が重要と考える。このことは多くの専門家たちが提言している。また、今回の事業費の問題について、事業計画では既存施設の建て替えの場合との比較はされているものの、既存施設を改修して利用する場合の事業費比較がなされていない。このことは、この間の門司港レトロ地区に対する市の予算のかけ方と、今回対象の施設への修繕改修費等の配分の仕方にも問題があると考え。各既存施設を集約して複合公共施設として新築する場合と、既存建物を長寿命化計画に乗って改修していく場合の比較を愛知県等では行っているが、その結果、後者のほうが費用負担も少なく地域に分散された施設のため、利用しやすさや近隣への市場効果も現れているとのことである。公共施設マネジメント実行計画でのモデ</p>	

(続 く)

ルプロジェクトとして進められてきた本事業であるが、なぜ北九州市はこのような比較をしないまま事業計画を進め、今回提案しているのか、業務怠慢としかいえない。

また、現在進行中の都市計画審議会「立地適正化計画諮問委員会」で元会長はこの政策理念として、①中心地のにぎわいづくり、②財政コストの削減、③災害に強いまちづくり、と発言している。また、今回の防災計画見直しの項目でハザードマップ内の対応等指針が出ているが、高潮浸水区域内に複合施設を建てることは、将来の子供たちに遺恨を残すものではないか等、法律、行政の専門委員等から危惧する意見が出されている中、本当にこのまま進めてよいのか。これからパブコメ、公聴会とのスケジュールであるが、市の作成した概要版の資料等だけで市民から意見を聞くというのは、いかがなものか。門司港の計画は、建設費高騰で着工時期には現在の予算価格より大幅に増えると考ええる。既存施設の利活用を再考すべきである。災害面でも危険な地域への新たな建設は、市民の命の危険性を自らつくることになる。

現在、武内市長の下、官民合同チームにより全事業の課題を洗い出し、事業を見直すといわれているが、下記のとおり本事業の多くの課題を洗い出し、見直すことを求める。

記

- 1 高潮浸水区域内の今回の計画について見直し、市民の命を守る計画に変更すること。
- 2 行政改革の視点からも、高騰する資材等考えると当初予算より大幅な建設費の増加が予測される。着工前に本計画の見直しをすること。
- 3 本計画に合わせて、老松公園の再整備計画も進められている。両方の事業予算を考えるとばく大な市の税金を投入することになるので、両事業の見直しをすること。
- 4 このところ、新聞やテレビで北九州市の公共建物での多数の外壁落下事故が報道されている。これらは施設老朽化の問題とされているが、老朽化の第一の原因は、施設建設後の毎年の維持・管理・リニューアルに対する手抜き、予算不足にあると考えられる。施設の長寿命化をうたう北九州市として、維持・管理・リニューアルのための十分な毎年の予算を確保すること。